

第2回郡上市和良地域振興施設検討委員会 会議録

期日 令和6年9月25日(水)

13:30~16:00

場所 和良庁舎 大会議室

出席 林琢也、長尾亨、水野正文、西尾琢磨、池戸豊次、小森亮喜、河合保徳、岩尾尚人、中島幸夫
和良振興事務所 池戸浄二、加藤孝、藤代雄二
オブザーバー 三島宏治、河合厚志、古田光、多田司、村瀬充広(代理)、
旗好宏(Zoom)、酒井崇弘(Zoom)

欠席 佐野みゆき、古川雄太、
三島保彦

1. 開会

2. 和良振興事務所長あいさつ

本日は第2回目の同じ振興施設の検討委員会ということで、ご多用の中お集まりいただきましてありがとうございます。

今回の検討委員会は、8月に和良地域の全世帯を対象としました市民アンケート、また8月下旬と9月上旬に開催した市民ワークショップの報告をまずさせていただき、基本構想の中身についてご検討いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 委員長あいさつ

今回、第2回の検討委員会ということで、前回に引き続きまして皆さんの忌憚ないご意見を伺いながら、地域振興施設基本構想の検討についてご意見をもらいながら、ポジティブにいろんなことを考えていきたいと思います。どうぞ皆様のお力が頼りですのでどうぞよろしくお願いします。

4. 議事(進行:委員長)

(1)第1回検討委員会での意見について

事務局 1つ目ですが、地域全体の取り組む取り組みとした場合、今回の入客見込み数などの数値が低いというご意見と、施設の観光入込客数の試算方法についてご意見をいただきました。

こちらについてですが、構想案に掲載のデータは、濃飛横断自動車道開通後の計画交通量の数値をベースにしたものになります。試算を行ったコンサルに確認したところ、現段階で明確な根拠を持ち、公的な資料に用いる数値としては、計画交通量以外にないという回答でした。

2つ目ですが、人づくりの進め方や仕組み仕掛けの内容を明示する必要があるという意見をいただきました。

こちらについて、今のところ具体的な方針や方法を明示していませんが、考えられることは、公民館や地域づくり団体等を通じた子どもたちへのふるさと学習の実施や、20歳を祝う会などの若者が集まる機会を捉えた「まちづくり」への参画のアプローチ、また若者を対象としたまちづくりワークショップや、起業を目指す人への相談窓口やチャレンジスペースの創設・活用などが考えられます。

3つ目ですが、農業をはじめとする地域産業に関わる人材の確保は課題であるということと、UIターン者の取り組みを含めた長期ビジョンが必要じゃないかということで意見いただきました。現在、市の方で将来の農地と担い手を考える地域計画を推進しており、和良地域でも地区ごとに順番に協議を始めているところです。こちらは、現在、和良おこし協議会で実施している農業法人、地域協議会等と連携し

た都市交流イベントの開催、また地元の農業法人や農協との連携による企業支援、あと道の駅での農産物販売所の設置による販路確保による活動支援があげられます。AI 等の先端技術を取り入れたスマート農業の推進と、農産物等の収穫体験などの実施など、農業と観光の事業化の支援が考えられます。

続いてロードマップですが、前回の会議で修正の指摘がありましたので、今日の資料の最終ページに、ロードマップの修正を載せております。

(所長より補足)

1 つ目の地域は、和良地域だけではなく市全体の取り組みとして考えた場合に、予想数値が低いということ、前回の検討委員会で委員からご指摘いただきました。事務局でコンサルにも確認させていただき、こちらでも検討しましたが、根拠が明確な数値という事で、計画交通量の数値を使用することとしました。

2 つ目の人づくりの進め方や仕掛けにつきましては、担当から申し上げたものにつきましてもう少し簡潔な言葉で表現をしたいと思っております。

3 つ目の農業に関することですが、担当から説明がありましたが、こちらもう少し簡潔な言葉で表現をしたいと思います。

副委員長 このロードマップの修正点を教えてください。

事務局 用地取得を令和 8 年に追加しました。

農振除外農地転用、基本計画を令和 9 年に追加しました。

実施設計は令和 10 年に変更しました。

建築設備を令和 11 年から 13 年、外構駐車場工事を令和 13 年から令和 14 年、開駅準備を 14 年としました。

副委員長 ありがとうございます。

(2) 住民アンケート及びまちづくりワークショップの結果について

事務局 ※住民アンケートについて、資料に基づき結果を説明

委員長 アンケートの内容について、確認したいこと、ご意見等をいただければと思います。※他の委員から特になし

事務局 コンサルに聞くと、回答率が 6 割を超えれば参考数値となると聞いた。

委員長 見ていただくとわかるように、若い人の回答が少なく、高齢者の割合が多い。

事務局 広報等と一緒に配布しており、家族全員で見るとということが少なく、最初にアンケートを見た人がパッと答えられたというところがあるかと思います。

QR コードを付ければ少しは、若い人の回答数が増えると思ったのですが、なかなか難しかったです。

委員長 農村域で 6 割の回収はぎりぎりだと思います。60 歳以上のところが 79%というところで、世帯主とか世帯数に準ずる人が該当するとなるとどうしても年齢が上の人になります。その分、壮年期 30 代～50 代の人をワークショップで拾えているか不透明なところがあると思います。

アンケートの設問 9 以降については。世代別で再集計し見せていただきたいと思います。60 代以上の傾向や全体のトレンドとの比較をしてみたい。

事務局 コンサルに再集計を依頼します。

委員長 単純集計だけでなく、少し属性などを分析した内容を最初に依頼しているとよかったと思います。

複数選択について、例えば設問 9 の「あなたが和良町に住んでいて不安なことを教えてください」について、「給油が無い、遠い」を選択している人が多く、回答率で言うと 7 割を超えています。回答の時点でいくつも選択ができる、かつ並んでいる項目を見るときに、回答者の心理としては「そうだな」と思いながら、あれもこれもという感じで、その結果多くなるという傾向があるように思います。その人にとって、給油への不安が最重要な不安だったのか、それとも他の項目が最重要だったのかがわからない部分があります。どうしても誘導尋問的になってしまい、その複数回答が多過ぎるがゆえに回答率が上がってしまった可能性もあり、せめて

世帯別ぐらいで見ないと、設問 9 以降のところの部分はジェネレーションギャップみたいなものなどが見えなかったりするのかなと思います。

あとは回答者の女性割合が 3 割余りになっており、和良の人口構成と比較すると低い。若い世代の声、女性の声というところが、世帯アンケートの場合、非常に低くなってしまうところあります。

事務局 繰り返しになりますが、その年齢別のまた集計ができましたら、データを送信させていただきたいと思います。

事務局 ※ワークショップについて、資料に基づき結果を説明

委員長 質問意見がありましたらよろしくお願いします。

副委員長 昨年度、地域協議会でもやったと思います。それをここへ反映してもらえるとありがたいと思います。

事務局 今年の令和 6 年 2 月に、和良地域協議会のメンバーと一緒にワークショップを実施しています。今回は、和良の全世帯にチラシを配布し、参加者を募集したり、さまざまな組織や団体に声かけを行い全 2 回行いました。計 3 回分を総合して、基本構想に掲載する予定です。

事務局 この中に反映されていませんが、1 回目のワークショップで、今ある 15 地区がそれぞれ 20 年後も存続できているのか、という意見がありました。それについては自治会を集約する必要があるという意見がありましたし、地域協議会の中でも意見があがりました。緊急に考えていかなければいけない課題です。

委員長 地域振興については地理的な理由で、どうしても集落によって差があります。その集落差部分をどの程度考慮するかというのは大事なポイントになると思います。

ちなみに、今回のワークショップで、1 回目は 20 年後の和良をイメージしようという、2 回目は振興施設のあり方をという形でステップがある気がしますが、2 回のワークショップの参加者は同じメンバーですか。

事務局 2 回で 1 つのワークショップとし、参加者もグループも同じメンバーです。

委員長 ワークショップの参加者が 20 と 23 なっています。アンケートがどうしても年配の方に偏っていますが、ワークショップについても同じように、参加者の年代がわかると思います。写真を見ると、比較的壮年の方が多い感じはしますが、アンケートでは比較的年齢層が上の方の意見が多く、ワークショップで壮年層の意見を捉えている感じがします。

事務局 20 代、30 代もいますが、40 代、50 代、60 代が主で、70 代以上は 2 名でした。

委員長 最後の全体結果でその①から⑦の機能をカテゴリーごとに整理されていますが、振興施設の機能別分けたということですか。

事務局 そうなります。

委員長 最終的に自由に出たものをこの 7 つに統合したというよりは、最初の段階で項目として、ある程度事務局の方でセットしている状態ということですね。

事務局 8 ページから 12 ページに当日の写真が掲載してありますが、模造紙にあらかじめ大まかにカテゴリーを分けていました。

(3) 基本構想案の協議について

事務局 ※資料に従い戦略 1 について説明

委員長 戦略の 1 を読ましていただくと、地域経済の核や拠点の整備という表現があります。どこかに何かしらものが立地するので拠点になると思うのですが、10 年後 20 年後と考えた場合に、拠点施設に自力で行けない人の割合というのは、今よりも増えると思います。その集落差や地区差を考慮というところで、そういった方たちのアクセス手段などに関する記述があるとよいと思いました。

委員④ 先ほどのアンケートについて確認しましたが、和良には 1 人 2 人の世帯が多いと感じます。また、30 年以上住んだ 60～70 代の方たちが多くこのアンケートに答えておられます。

このアンケートをそのまま引用して作ると、20 年後の和良の未来とかなり乖離する

かもしれないと少し考えました。

それから、和良町の印象について「どちらとも言えない」「住みにくい」少し多いなどというのは感じました。「まあまあ住みやすい」という回答は、この地域に特別なものがないという感じにも捉えられます。和良の魅力として多くあげられているのが、自然豊か、きれいな水といったところです。それを和良のシンボルとして、もしこれから何かを作る時には、ストーリーの柱はすべてそこに繋げるべきだと考えます。20年後も今と同じ、豊かな自然環境をこのままというところに繋げて欲しいと思います。

あと、不安なことを教えてくださいという設問に対して、交通の不便が多くあげられていますが、これは濃飛横断の整備で確実に解決に向かうと思います。東海北陸自動車道が大和から美濃まで開通する以前の観光客は3万5000人でした。今は87万、最大97万人まで増えている。欧米からも多くの人々が来訪し、予想を超えた衝撃的な変化を感じました。道路の整備により、和良においてもそういった可能性があると思います。

日用品購入の場に関する不安、働き手等の課題については、機能の融合という方法がある。大和開発の場合はPAにおいて、コンビニ機能と特産品販売事業を融合し、自社で開発したショップにおいて運営しています。

コンビ二のフランチャイズについては、賃料等さまざまな支出が発生するので、そういった面でも節約になります。地元住民が利用する日用品の販売については、コンビニ、特産品販売とコーナーを分けながら店づくりを行う必要があると思います。

それから、和良の魅力、アンケートでも多くの方が挙げられている自然、人との繋がりであり、新たな施設を考える上でもこれが柱になると思います。

1つ細かいことですが、アンケートの中で導入機能の中にガソリンスタンドがありますが、ガソリンスタンドは確かにそばにあればいいですが、果たしてそばにあれば入れるかということ。若者たちはもう既に1円でも別の場所に入れていると思うし、維持経費や施設整備費用等、民間がなぜ撤退しているのかを確実に読み取ることが重要だと思います。

仮に行政が何億と投資をしてガソリンスタンドを整備したところで、翌年からの指定管理料が高額になれば本末転倒でないかと思います。導入機能については、もう少し絞り込んでいかないと、地域振興施設に限らず、維持できない指定管理施設がどんどんこれから増えてくると思います。

アンケートであがったからとあれもこれもではなく、あらゆることを想定した上でないと、整備してみたら働き手が足りない、維持費は出ない、利益が出ない、何のために作ったのか？という状況になりかねない。私自身がやってみてそう思うので、まずは現実的に収益を考え、施設の売りとしての柱をきちんと置きながら、その中に無理のない範囲で地域課題への対応機能を少し盛り込むということを考えるべきだと思います。

もう1つ地元の人たちのチャレンジショップというのがあるが、テーブルと椅子、例えば電気の引き込みの配置を考え、利用者がその場をいかに自由に有効的に使える空間とし、開放できるか考えることは重要です。

基本構想案にあげられている4つの戦略自体は間違っていないと思います。アンケートにあったから作って見たら事業費が膨らんだというのではなく、大きく生み出すよりも小さく始めて大きく育てる方がスタートしやすいと思う。余地を残した計画を作る方がよいと思います。

委員長 ターゲットや、そのねらいをどのようにという内容はすごく重要なポイントだと思います。

事務局 基本構想というと、まずは夢を語るということから始まるが、例えばガソリンスタンドについても、閉店や撤退が進んでいる現状を捉えながら、先を見越すという事が大切です。

先に委員が言われたコンビニと特産品販売については、東海北陸自動車道の城端SAで目にすることがあり、萩原町にコンビニとガソリンスタンドが融合したお店があり、馬瀬でもガソリンスタンドと喫茶店が一緒に営業しているところもあります。

構想という段階で、いろいろ地元のご希望やご意見をお聞きしながら、次の基本計画の中で現実的な視点から身の丈にあっていかなければならないと考えています。委員の今のご意見は、大変参考になりました。

委員長 構想の段階では、地域の方々などから意見をお聞きし、色々なものがどんどん増えていくが、機能として導入するかしないかについて、最終的にどの段階で決まりますか。

事務局 最終的には基本計画で現実的な規模を考えることにはなりますが、明らかに困難なものについては、基本構想の中で絞ることは必要だと思います。

例えばワークショップやアンケートに温泉が出ていました。その場所で掘削できるのか、温泉スタンドから毎日お湯を運搬するのか、投資経費や維持管理経費、コスト的にどうなのか等、現実的なところを考えた場合、それは可能なのか…と考えた場合、委員の皆さんはどう考えられますか、というような確認も必要になります。

委員⑩ 私は道の駅和良に勤務し、先輩たちからいろいろ教えていただきながらやっています。基本構想はコンサルや皆さんの意見を聞きながら作るものなのですが、実際に働いてみて思ったのが、この戦略3の人材の育成が課題だと思います。

人口が減っていく中でどのように人を育て、また確保するのか。和良の道の駅は小さいので いろいろやりくりしていますが、若い人ガッツリ働いて給料がもらえるような施設ではなく、定年退職した人に1日5時間くらい働いてもらっているのが現状です。建物に関しては簡単に書けるが、実際にどのように人を確保していくのだろうかと思いました。

アンケート結果で面白かったのは、和良は「人がいい」という回答がありましたが、全く反対の意見もありました。個人の性格かもしれませんが、自分が思うのは全体的には比較的ウェルカムという感じがします。人について基本構想への反映は難しいので、人材の確保というところを掘り下げてもらおうとよいと思いました。

それから、観光地である下呂と八幡の間にある道の駅ということもあり、和良と下呂の道路が整備され、お客さんが結構増え、この連休では天気が悪くても、お客さんが多かったです。

このアンケートの中ではただ通り過ぎていくだけのお客さんという意見もありましたが、明宝ハムや明方ハムは八幡にも大和にも売っているのに、道の駅和良でたくさん買われる人がいました。そうすると、どこから来たのか、飛騨から来て初めてここへ寄ったのか、珍しいものがあったのか、などお客さんに聞いてみたいということを思いました。道の駅でそういうお客さんにアンケートを行うことで人の動きが分かるかもしれないと思いました。

先月から月に1回、鮎を焼いています。毎月1回、曜日を決めて鮎の塩焼きを始めました。すごくおいしいと好評なので、鮎を確保しないといけませんが、続けていき、お客さんを増やしていきたいと思っています。

委員長 今回のうちにファンを増やすのが、私たちの仕事だということをおっしゃっています。本筋とは関係ないですが、もし道の駅でアンケートされるのであれば、どこへ行く途中かなど、道の駅和良に寄る人の現状を探れると面白いと思います。

戦略3の人材育成については、例えば他地域に進学就職で出ていかれ、また戻ってくる場合という場合もありますので、今は人材育成と交流と書いていますが、人材の確保というのを併記してもいいと思います。

アンケートの中で、人付き合いについて記述がありましたが、一般論としてその人間関係がよすぎる場合、逆に頑張り過ぎ、過重労働になるとか、周りが頑張っているから自分たちもという場合もあります。

和良の魅力の1つとして、人がいいというのはありますが、一方で移住者がまわりにはいい人が多く、お世話になっているからと思うと自分も変なことしちゃいけないと思い、頑張り過ぎて余計疲れてしまうことは、想定してないけど結果そうなるという可能性もあります。

事務局より戦略 2、3、4 について説明

委員長 事務局からの説明についてご意見とかいただければと思います。

委員⑥ 1-31 の 5 番の「将来的に見て撤退が心配されるガソリンスタンド」は、今年春にお店が廃業されたので、記述の修正が必要です。

事務局 基本構想案をまとめたのが去年の冬でしたので、修正を行います。

委員⑪ 戦略 1 は確かにまちづくりビジョンの中で地域振興施設を新しく作りますという話ですが、戦略 2、3、4 は振興施設の話になっている。和良のまちづくりの戦略が、施設に特化されているような感じです。何の戦略なのか一貫性がないようですので、整理が必要だと思います。

もしまちづくりの内容であれば、道の駅や振興施設以外の内容もあってしかるべきだと思います。

委員④ 今の基本構想に道の駅の事業部門で、和良おこしが担っているポジションやハザコや蛭観察、田んぼのオーナー制度などの和良の自然を活かした取り組みも入れたらどうか。和良の郷総合開発の事業部門で既にやっている取り組みですが、基本構想の中に入れておけば、人材育成や交流を含み深めながら移住促進にもつながってきます。

但し、事業所としての体力や余裕のない法人においては、地域貢献や地域課題解決といった方面に軸足を置けば置くほど、会社経営は厳しくなります。資金力に余力があり、経営のバランス感覚があつてこそ、社会貢献・地域振興の部分も担える組織が育つことになります。そこまで持てないといけないと思います。それをうまく表現できると現実的な絵が描けると思います。施設を作るための計画書に見えてはダメなのですか。

事務局 最終的には地域振興施設の整備を見据えた構想となりますが、将来の和良のまちづくりを進める上で、地域振興施設はどういう役割を担えるかということになります。

委員④ 地域の人たちが勉強会をしたり、ショップを開いたり、イベントや自然観察会の拠点になったりとか、さまざまな関わりによって、和良のまちづくりに担いたい、和良に移り住みたいなどと繋がる可能性が開けます。その時に、世帯が減っている地域に空き家があれば、移住者が魅力を感じて住み始める、というような効果生まれてくると思います。

ただ国などが言われるような、コンパクトで中心に全部機能を集めるという方法だけでは、地域を守ることはできないと私は思います。

遊休農地については、地域振興施設を拠点として催しやイベントを行い交流機会が増えることで、農業に興味を持たれ、関わりたいと思う人が出てくると思います。

委員長 先ほどの委員⑪の意見については、第 I 編のタイトルが和良地域まちづくりビジョンになっているからだと思います。構想自体は表紙の通り地域振興施設基本構想になっているので、道の駅を核としたまちづくりビジョンとするのであれば、和良地域全体のまちづくりビジョンとすると、タイトルとしておかしくなくなると思います。

事務局 まちづくりを考えた上での、地域振興施設ということです。

委員長 第 3 編になると新道の駅和良の基本コンセプトが登場するので、前の段階だからその地域全体のまちづくりのビジョンとして、その核になるような施設があるといいよということですね。

戦略 1 の内容が地域振興施設の整備と運営という形になっているので、人が集まり交流すること自体を促すものが和良地域まちづくりのビジョンの中で重要であり、拠点施設の整備が大切ということであれば、戦略 1 をそういう形の表現にすればいいと思います。

委員⑥ 最初にお聞きしていたのは、和良地域振興施設、道の駅を移転整備するために会議を立ち上げて、みんなの意見聞きたという話でしたが、今、まちづくりという話になっています。地図を見ると農地が一番多く、地域では人農地プランを作りながら地域どうしていくかを考えられていると思いますが、地域全体のまちづくりということであれば、そういうところも入れていかないといけなくなります。

道の駅を整備するために、というのを前面に出てきたらいいと思います。まちづく

りを広げてしまうと、他のことも考えなくてはいけないし、インフラ施設の話も出てきてしまう。戦略についてもおっしゃった通り、違和感があるなと思って聞いていました。

事務局 最終的には地域振興施設を建設することになります。濃飛横断自動車道の整備が決まり、それを活かすまちづくりを考える上で、地域を素通りされないために、現行の道の駅和良が担っている観光や産業の拠点の整備が必要ですよというところが始まりになります。

濃飛横断自動車道開通を活かしたまちづくり、その上で和良地域振興施設の整備といった視点でのまちづくりビジョンについて整理したいと思います。

委員⑩ キャンプ場の近くに道の駅ができるということで、前所長が川まちづくりの話が合った。国土交通省の補助金をもらうために作成したようなことを聞いた。

事務局 かわまちづくりの補助金に関しては、前所長からの確認では、川辺で催しなどを施設整備のためのミズベリングという別事業があり、そのために護岸など川を整備するための補助金というものでした。

委員長 戦略の2と3の両方に関わりますが、農業経営者とか農林水産業者との共同や連携がありますが、専業農家率低く兼業が多いという現状から、5年後、10年後に退職して農業を始める人は増えると思いますが、農業のみで生活をする人ではありませんが、農業経営者とか農林水産業者という表現は専業を想起してしまう気がします。また、地域産業の担い手であったり、都市農村交流の担い手については、その意味から、農業の暮らしであったり農村の何かをバックグラウンドにしながら活動をする場合には、むしろ長く暮らしている人の方が自然を使った遊ぶ術は知っている場合もあります。そうすると別に農業経営者である必要はなかったり専業である必要がなかったり、むしろ兼業だったりとか違う職種も経験した人の方が上手くできたりすることだってあり得るかなと思ったりします。

事務局より地域振興施設の役割について説明

委員長 役割1、2、3に関することで質問等あればよろしくお願いします。

委員⑪ ワークショップは、今日の資料に8月と9月に実施した内容は反映されていますか。

事務局 日数的に間に合わなかったため、まだ反映されていません。

委員長 検討委員の方々から出された大事なポイントが出たら、それも加味するものに含めてもらえるって形になりますか。

事務局 そうなります。

委員長 役割2のところにアユやオオサンショウウオと自然豊かな和良がありますが、濃飛横断自動車道を作らなければ一番自然にやさしいとなるところ、そこをいってしまうとそもそも検討委員会が要らない話になってしまいます。

私個人の意見としては、そもそも地域振興施設を作るっていうプロセスにおいて、すでに自然に少なからずインパクトを与えながら作るというのは、揺るがない事実です。工事の段階で土壌の流出により川が傷んでしまったり、鮎の品質が落ちたり、蛍の発生に影響がないとは言えない。であれば、地域振興施設自体の役割の中に、施設自体が環境にやさしいものであることと、自然に関することを役割の中に盛り込むべきではないかという気がします。

この中には機能的な意味で魅力を伝えるとか、日常生活を守るみたいなものもありますが、内外の人にとって自然や環境を意識したり考えてもらったり、それも1つの役割に入れたほうが良いと思います。道路や施設を作る時点で環境ダメージは絶対的にはゼロではない。和良の魅力である鮎やオオサンショウウオなどの観光資源を活用し、自然豊かな和良を体験できる場とするなど、施設完成後においては、何かしら自然にやさしいという部分などを役割の中にあっても良いと思いました。

アンケートの中でも、和良の人々にとって和良の自然がすごく重要であり、自然環境に恵まれた町まちであることは確認できます。

委員⑧ 役割1のところ、郡上市としての玄関口、そして魅力を伝えるというところがあ

り、表現のし方だけかと思いますが、役割2で広い意味での郡上市民同士の交流拠点や、市民と来訪者が出会い交流し、和良町の魅力を市外の方にも知って欲しい拠点と、市内の方についても和良町の魅力を知ってもらえる印象を持ってもらうには、「町民」より「市民」というフレーズの方が、市の地域振興施設として、他の地域の方等に浸透や理解が広がりやすいと思います。

事務局 郡上市の東の玄関口で、市の施設でもありますので表現を変えさせていただきたいと思います。

委員⑩ 今の郡上市の東の玄関口というのが出たので、政策推進課長を初め本庁職員の方が来ておられるが、当然、市の方からも大きなバックアップをいただきたいと思いますし、政策推進課長から、その辺も含めて意見ををお願いします。

政策課長 この計画自体が市全体としても非常に大事な取り組みだというふうに認識しておりますので、前市長からも全庁体制で臨むということになっております。今回もオブザーバーとして本庁の各所管部から担当職員がこの取り組みについて一緒に見守らせていただきながら、中心には振興事務所が事務局の中核で動いている状況になっています。

先ほども一部振興施設のことや和良地域全体の話のことにフューチャーしているのかという話や、東の玄関口っていうところで、さらに広い視野に立ったお話になっておりますが、実際に郡上市全体としての取り組みという部分においては、すごく広い見方をして、東側の玄関口であって、県を横断してくる大きな道路に対して和良がどういう立ち位置になるだろうか。そこでどういう形で地域が盛り上がり、今後、和良に住んでくださる人や担っていく人がどんなふうに増えていってもらえるだろうかというところも、含めながら考えている部分でもあります。

ただ、最終的には第3編あるように新道の駅は、この道路が来ることによって、こういう施設がこの地域にあるといいなというところで策定しています。

視点としては、道の駅というところをフューチャーしている部分ではありますが、そこに付帯としてどんな機能を持たせるべきだろうか、その機能を持たせるにあたっては、どんな地域の将来ビジョンを作っていくべきだろうか、さらには、郡上市全体はどんな形になるだろうかというものが、この1つの基本構想の中に、複雑に折り重なっております。基本的には地域振興というすごく広い中で書いている部分というところが1つあります。

一部ご指摘あったように、和良地域全体なのかとか、この施設だけのことを言っているのかという部分においては、担当によって目線が違う部分もありますので、委員の皆さんには、その辺りまたいろいろご指摘をいただきながら、しっかり作り込んでいきたいなというふうなことは思っております。

私もこれまで経験している部分を含めて、振興事務所の担当と一緒に書き込み等もしていますが、どうしても自分の目線の中で思い込みながら書いている部分もありますので、委員の皆さんからいろいろご指摘いただきながら作っていききたいなと思っております。

良い施設の整備には、地域の皆さんのいろんなご意見をいただく中で、構想をしっかり作った上で、今度はそれを叩き台にして次の計画へ結んでいきたいと思っております。

委員長 本庁の方には東の玄関口はどれぐらいの機能を求めるのかをすごく気になっていました。要はその東の玄関口と言った場合には他市町村から来た人からすると、ここから郡上市の入口だというのはありますが、一方で前回の会議の際に、土木事務所の方から高規格道路でスピーディーに下呂と八幡をつなぐ道であるという話からすると、玄関口のところであまり八幡町の地域性を示すようなことを先取りしすぎる必要がなくなってしまうと、結果的に和良らしさを強調するしか戦略がなくなるのかもしれないと思います。

つまりその東の玄関口だからといって、郡上おどりの話をたくさんしたところで、結局本物は違うということになる。ここで八幡や他地域の話はそんなにできなくて、和良を強調することが中心になる。そうすると郡上市の玄関口だと言われながらも東の玄関口でやれることというのは郡上の地域のことを強調することになってしまう気

もしますが、そういうことですか。

政策課長

前副市長からは、やっぱりこの施設を構想しているのは、すごく大事なことで、地域のためには、こういう機能があるべきだろうと言われました。

一方では郡上市としてこの施設に対してはこういう効果を期待したいという、ぼんやりした表現になりますが、この和良の地域性というのはすごく大事で、市全体のプロジェクトっていう意味で言うと、この高規格道路によって郡上の東側にできる新たな大きな入口である。ここでもゲートウェイという表現をしています、和良地域に新たに入っていただく、でも郡上市の入口だっていうところ、その両面っていうところがあります。

委員さんが、その先の部分においては、もう少し細かい計画をおっしゃったように、商売という観点から見ての作り込みという部分もすごく大事だと思います。

委員長

委員さんのお話あったように、今日の話はどちらかというと和良町内と外という話だったのですが、郡上市というところで見ただけには、和良以外の6地域の人たちにとっても、ここに来て和良の色々なことを感じ、あるいは施設での交流など、ここに来るきっかけになるような側面も非常に重要だと思います。だから、役割2のところの文言の通りでいいと思います。「地域の人と資源が集まり」というところの地域というのは、和良地域であると同時にもう1段スケールアップした場合には、他6地域も入ってくるので、そこの部分が抜けている。委員さんのご指摘を聞いて思ったので、何かその市民同士の交流拠点っていうところの部分が本当の意味での郡上市民ですよ、ね。

市民同士が集まり、和良を考え、ここに来るっていう意味がもう少しあってもいいのかなと思います。そうすると役割に書いてあるこの項目が今でも多いのにさらに多くなってしまう。

役割1と3が空白でちょっとバランス悪いと思います。

事務局

その辺も含めまして、次の会議の前に示してご協議いただくような形にさせていただきたいと思います。

委員長

役割3で、先ほどから15集落の話をしていたと思いますが、災害時の拠点ってところも備蓄とかストックしていても、道路が寸断したりとか何かあった場合に、ここにアクセスできなかったりとかすると孤立します。ここにはたくさん備蓄があったところで、ここが拠点になるっていうところと、つながってところが何かもう少しきっちりと明記された方がよいと思います。そうしないと地域の中心部の周辺の人以外は、メリットにならなかったりするのかなと思います。

委員④

防災拠点として道の駅に求められるのは、通行止めになったときに滞留している車に対し電気も食料もトイレも3日間はすべて何とかなるというところが抜けています。おそらく道の駅の申請した段階で質問されます。

郡上市和良町に道の駅に防災拠点が出来て、東海北陸自動車道や国道156号が通行止めのときに、下呂市金山町の国道41号から支援物資を運ぶことや、自衛隊の派遣を追加するなど、その辺のスケール感が必要で、今の道の駅では防災機能としてのスケールが小さすぎるのではないですか。

あと先ほど言われた、まちづくりビジョンを引きずりすぎて、表現がまとまっていないし、そのスケール感だと発展はしないと思います。

もっともっとスケールを大きくしないといけないと思います。自然、和良鮎、川が長所で、日本全国、世界から人が和良に目的としてくるような、交流が生まれ、希望や夢をしっかりと文面に入れる必要があります。

濃飛横断自動車道はつなぐ役割で整備されます。

表現全てが町民で表現されているので、和良町民だけの交流であれば新しい道の駅を作らなくても、ドームでいいじゃないかという議論がされたと思うが、もちろん背景にある和良川や地域資源が、やっぱり柱になって、人を引きつける力があると思います。

委員長

地域振興施設自体の求められるものというのが、今のお話もありましたが、すごく大きなところからローカルなものに含めて色々なところに答える形で、今日の冒頭で

も話したようにその重みづけや、いつどの段階で盛り込むのか。そうしないと今の段階では、皆さんおっしゃったような大きい話のところも盛り込まなければならない。

しかし、それぞれロケーションで立地しているのはこの場所だから、その場所に住んでいる人にとっての部分の部分が常に並存するから、すべてのものを羅列する形が延々と続く感じになると思います。

委員④ 役割2の黒丸2で和良町民同士の交流の拠点となり、何度も訪れたくなる場所は市外の人を想定できます。

役割2の黒丸3は町民同士の交流それは町民で逆に、何度も訪れたくなる和良の魅力に引き継がれて訪れることは、市外の人をより引き込んだものとしているように思います。

委員長 ただ役割2のタイトルが地域の人と資源の集まりになっているので、ローカルな話になっている。これが地域内外の人と資源が集まるではないため、だから今の時点では間違っていないと思います。

皆さんが言われたことを盛り込み、その機能が重要であることを強調するのであれば、役割の上のところの書き方が地域の人と資源の集まりが修正されないとおかしくなると思います。

委員⑪ 新しくできる施設を想像していますが、今の道の駅と違う方がどこなのかなっていうのは見えづらい。今でも地域の人は交流しています。

事務局 今回の道の駅の機能を移転するという含まれています。

委員⑪ イメージが今の道の駅に引きずられて、移ってさらに交流がもっと盛んになるのだろうかと思います。

事務局 濃飛横断自動車道が開通すれば、今の道の駅より新しい道の駅の方が寄りやすい。

委員⑪ そう考えると、道の駅にプラス何かがないといけない感じがします。

でも、そのプラスアルファが何なのかなという気がします。

事務局 例えば場所がキャンプの近くにインターできるのであれば、相乗効果はあると思います。

委員⑪ 防災道の駅について2-23 ページは、最初新しい施設が防災拠点に指定されることになるということですか。

委員④ 道の駅は第3ステージの機能を求めています。防災拠点として道の駅にするのか。地域の福祉的なところで、例えば老人ホームを併設、保育園・幼稚園とか、要は道の駅の中にそれを併設していいですよということです。

道の駅は、地域振興施設とPR情報発信機能とトイレ、この3つの機能を備えるということが始まりでしたが、現在、国はそのレベルでの機能は求めています。

既存の道の駅と同じ機能では何も意味がないと言われると思います。てっとり早いのは、既存施設の場所移転ですが、単なる機能移転だけだと和良町民は納得しないだろうし、郡上市民も納得しないと思います。

新しい未来型で若い人たちや、子どもたちが集まる場所や、アンケートにもあった公園であり、子どもたちが過ごすそういう学びの場や、高齢者の方も集まる機能が逆にあってもいいと思います。また、スペースを貸し出して展示会を実施するなど。

委員⑪ さきほどの防災の話は、防災道の駅の登録を目指しているとうことですか。

事務局 まだそこまで考えてはいない。今、道の駅で登録をすると、そこまで求められるということは確かに土木事務所の方からも確認しています。

委員④ 駐車場台数については、県の方から通行台数から何台以上は県が負担しませんということになると思うので、将来性を見込む必要がある。施設を作るにあたって、どの補助事業を取ることも視野に入れておかないといけないし、それによって求められる機能や目的が入っていないと補助対象の起債対象ならないと思います。

政策課長 今回の国のデジタル田園都市国家構想交付金があり、それが2分の1の交付金です。一番使いやすい優位な補助金は過疎対策事業債となります。

償還金の7割が普通交付税で算入されてくるので、実質3割の負担で建設等ができるという部分がある。ただ一番ネックなのは、誰が整備するというところの仕分けの部分です。市が整備するのか、それとも民間の活力をうまく活用させていただけるよ

うな仕組みがあるのか。指定管理の部分においても、本当にそれがふさわしいところをお願いできるのか、そういう部分も含めて見極めないといけないと思います。大きな構想がいいのか、悪いのかという部分もあるし、おっしゃったように、小さく産んで大きく育てる方が、すごく着実というか、確実にむしろ身の丈に合った流れになってくると思います。いろんなことを同時進行で考えないといけないと思います。

事務局より配置計画案について説明

委員長 先ほどの最後の方の議論とも重なってきますが、施設のレイアウトや配置計画等も関わってきますので、先ほどの議論の延長でも構いませんし、別の視点からでも構いませんのでよろしくお願いします。

委員④ 3-19 ページ公共循環提案との関連の中で、日常買物施設とチャレンジ施設は公共民間提案、飲食施設と特産販売施設は民間、提案の店舗を分けると投資価格がまた億単位で増えてきます。1店舗の中にそういう機能は全部入れられないかと思えます。施設を幾つも分ければ分けるほど、運営経費が赤字になって運営できなくなってきました。日常買物施設のレジが1つ、チャレンジ施設のレジ1つ、飲食施設と特産販売するレジがいることになり、レジ係が1人いることになり、今回の新札への更新がある場合は、レジの台数分の基盤更新経費がかかる。経験上、施設にレジは1つでいいと思います。E Vは民間で100%やってもらっていますが、経験上、正面に設置しないほうが絶対よいと思います。

送迎について現在の状況はどうですか。

副委員長 今はドアツードアでやっていますが、今の巡回バスを基本的に全部変えてしまう必要があります。

委員④ コミュニティーバスなど色々な循環が変わる。停留場所の待機時間にカフェを利用できるようにとか、食料品を買って帰られるような等、そういったところをイメージする必要があります。

あと、段差がないとか、バリアフリーといった点も考えた方がいよいと思います。

用事が無くても、お年寄りが来る。それが健康の秘訣になり、コーヒー飲みに来てわいわいするのが日課になるようにすると、1つの日常課題の解決につながります。

大きな図面で立体的見て、人がどう動くかを考えてみるとよいと思います。

さっき思いついたのが、アユ1尾でコインランドリー1時間利用権を交換して、アユを釣ってきた人は自分の服をコインランドリーで洗濯と乾燥ができる。現金でなく鮎で循環させる。それだと仕入れは釣り人がやってくることになる…そういう運用を、頭を柔らかくして運営を考えることが成功に結び付くと思います。

とにかく自分が働くつもりでイメージして動線から立体空間まで考えるとよいと思います。

委員⑥ 概算事業費っていうのはこの計画の中にこう入れないといけませんか。

目安として、用地買収の単価などはいっていますが、この単価が1人歩きすると怖いと思います。

委員長 配置計画の細かい話をしますが、施設レイアウトの建物は低層では町の景観に合うデザインというふうにざっくりと書かれているかと思えます。

和良町の景観に合うデザインというのは周囲の田園地帯をお邪魔しないというニュアンスですか。

事務局 そういうことを希望します。あくまでも構想の段階なので細かいところはこれからになりますし、この配置のレイアウトは、あくまでも一例です。

委員⑪ 難しいと思いますが、新しい道の駅から見ると、目の前に高い道路が出来てその向こうにキャンプ場の場合、自然がどう感じられるかなと思います。

委員長 今のご指摘すごく重要で、現場に立った場合、人がどう見えるのかというものがあればいいと思います。

委員⑪ 逆にキャンプ場から見るとどう変わるのかがあればいいと思います。音も結構、聞こえる気がします。役割の1つに自然を体験してもらうところがあるため、どのよう

にしたらいいかと思います。

委員④

前回、私が発言した意見は、走行車線から50～60センチ上がる角度の奥行き
背景の中に、商業施設が入るように残土を盛った方がいいということでした。前回の
会議で、商業施設とか交流施設がある程度、道路から見下ろすような感じがよい。法
面の下へ降りるきっかけづくりが必要です。

中部縦貫道沿いの大野市の荒島の道の駅整備のように、降りてくる動線上をうまく
考えると、施設の周辺を通して街へも流入していくような効果が望めるようになります。

しかし、レストランから川が眺められるということになると、今の想定位置から道
路を越えた反対側に作らないといけない。今の線形からいくとこの土地が狭いので、
それを考えるのであれば、設計事務所と検討されるといいと思います。

ただ、飲食店から見えるのが法面のみといった感じではよくありません。

施設の配置と背景をどう作るか、景観の距離感と高さを決めて、木や花を植えると、
そのバランスで日本人が落ち着く景色になると思います。

委員長

そろそろ開始から2時間になりますが、その他特になければ、本日はこれで閉じたい
と思います。

5. 閉会